

# 「山野小学校の石井鎌手踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

伊佐市立山野小学校

## 2 学年・人数

第5学年（5人）・第6学年（9人），計14人

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

令和4年7月～令和4年11月 総合的な学習の時間（本校体育館）

### (2) 発表の日時・場所

令和4年11月12日（土） 創立150周年記念山野小学校学習発表会

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

### (1) 名称

石井鎌手踊り（いしいかまんでおどり）

### (2) 由来

伊佐市山野の石井地域に古くから伝わる伝統芸能である。由来は様々な説があるが、1590年豊臣秀吉が天下統一後の朝鮮出兵（1592年島津義弘公）から帰ってきたときに、伊佐市山野地区の住民が、太鼓踊りなどで歓迎し出迎えたのが始まりとされている。戦後（昭和25年頃）から写真に残されており、当時は「6尺棒に6尺棒」「6尺棒に鎌」の踊りであった。1950年頃には男性不足から女性が踊ったこともある。なお、現在の「鎌と長刀」のスタイルは、1960年頃から踊り継がれているようである。

### (3) 構成等

鎌2人，長刀2人の4人組が4グループ，合計16人で踊る。鎌は柄の長さ1尺5寸位，柄のつけ根のカネには房をつける。長刀は柄が5尺2～3寸，房はつけない。どちらも檜の木で作る。服装は白浴衣，腰を少しつぶり，手甲，脚絆，白足袋，武者ワラジ，タスキ，鉢巻姿といういで立ちである。歌詞は，出端の道歌「今こそ参る，神にモノメイ（物参り）」にはじまり，中「清めの雨は，三度パラパラ，焼け野の雉は岡の瀬にすむ」とあり，引端の道歌には「今こそかへる。神にモノメイ」と歌われている。

## 5 保存会や地域との連携の具体

8年前から総合的な学習の時間を活用し，郷土芸能に関する学習の取組を進めてきた。保存会の会員の高齢化に伴い，存続か消滅かといった後継者問題に直面している状況であった。現在，山野小では保存会の方々と連携を図りながら，地域の伝統芸能の保存に向け，無理をせず長期的視野に立ち，取り組んでいく方向で活動を進めている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地域の伝統芸能継承学習として、総合的な学習の時間の中で「山野の宝を受け継ごう」というテーマの下、年20時間の授業を設定した。

主な学習内容は以下のとおりである。

- (1) オリエンテーションをして計画を立てる。(2時間)
- (2) 保存会の方から踊りの歴史や伝承活動に対する願いを学ぶ。(2時間)
- (3) 鎌手踊りについて調べる。(2時間)
- (4) 踊りやたすきがけについて実際に指導を受ける。(9時間)
- (5) 学習発表会で発表する。(2時間)
- (6) 地域に伝わる伝統芸能の継承についてまとめる。(3時間)

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



保存会の方々による指導



学習発表会での発表

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【6年生児童】

「ドンドン！」みんなの足音が耳にひびいた。学習発表会の舞台上で地域・保護者の前での発表に緊張した。最初はよかったと思うが、最後すごく早くなってしまい、ずれてしまった。でもがんばったと思うし、山野小がずっと続けている鎌手踊りを、ぼくたちもやりとげることができたことをうれしく思う。

### 【教職員】

地域伝統の「石井鎌手踊り」の衣装を身に付け、華やかに踊る子どもたちの姿に感動しました。6年生にとっては、2年間の総決算。立ったり座ったり、独特の節のメロディーで難しい踊りでしたが、子どもたちの一生懸命な様子がうれしかったです。5年生には託されたバトン引き継いで頑張ってもらいたいです。

### 【保存会から】

子どもたちが踊りを引き継いでくれることに心強さを感じる。地域の方々にも喜んでいただいている。これからも継続して活動に協力していきたい。

### 【地域の方から】

創立150周年記念式典に参加させていただき、すばらしい高学年の鎌手踊りを見ることができて感激しています。地域の伝統的な踊りを子どもたちが引き継いでくれていることはうれしい限りです。小学校には今後もこの継承活動を絶やさず続けていただきたいと思います。